



ひ さい せい かつ たい せつ
[被災生活で大切なこと]

きん じょ ひと たす あ
近所の人と助け合う

- ▶ じょうほう ぶっし こうかん
情報や物資を交換する
- ▶ こま とき たす あ
困った時に助け合う
- ▶ ふだんからあいさつをする



近所の人と助け合う

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① 避難所生活を終え、みなとくん一家は自宅に戻りました。まだ、水道は止まっています。お母さんと出かけようとした時、お隣のお姉さんに会いました。「小学校でお水、配ってましたよ」と教えてくれました。「あら、ほんと？ 行ってみます、ありがとうございます」とお母さんが答えました。
- ② 数日後、みなとくんはお母さんに頼まれて、お隣のお姉さんを訪ねました。「お姉さん、この間は教えてくれて、ありがとうございました。」「いいえ」とお姉さんは言いました。
- ③ お礼に、みなとくんはお姉さんにアンパンを渡しなが、「○○○○○」

▶ セリフの例 気持ち

「これ、お礼です」
「アンパン、どうぞ食べてください」

▶ 発問例

- ・ みなとくんとお隣のお姉さんのやりとりを見て、どう思いますか？
- ・ みなとくんの立場だったら、他にどんなことをしますか？
- ・ 近所の人と助け合ったことはありますか？

■ 教訓シートの説明



▶ 情報や物資を交換する

- ・ 災害時、災害後は、重要な情報がたくさん出されますが、電気、通信、交通などのサービス機能が回復しないと、情報を得ることが難しくなります。近所での情報交換は、とても役に立ちます。
- ・ また、物資も不足し、必要な物資が必要な人に届かないこともあります。近所の人と助け合うことが大切です。

▶ 困った時に助け合う

- ・ ごみの収集など、ふだんは受けられる公的サービスが、ないこともあります。近所の人と助け合って、困難な状況を乗り越えていかなければなりません。
- ・ 近所で困っている人がいたら、積極的に声をかけましょう。

▶ ふだんからあいさつをする

- ・ ふだんから近所の人顔を覚え、道などで会ったら、あいさつをしましょう。
- ・ このような小さなつながりが、いざという時に大きな支えとなります。

■ 東日本大震災の教訓

近所で助け合ったというエピソードをたくさん聞きました。「支援物資を多くもらった時にはおすそわけをした」「近所の人配給で娘の分をもらってきてくれたり、逆にこちらがもらってきてあげたりしていた」「車で移動する際は、声をかけ合って乗り合いをしていた」「近所のおじさんに台車を借りて、そのおじさんの分も水を運んだ」「隣の家に温かいスープを差し入れたら、冬になって雪かきをしてくれるようになった」「子どもだけで留守番していると、隣の家族が声をかけてくれるようになった」など、震災時に助け合ったことでできたつながりが今も続いている人たちもいます。